

平成22年度第3四半期報告の概況について

三井生命保険株式会社（代表取締役社長 山本 幸央）の平成22年度第3四半期報告の概況につきまして、以下のとおりお知らせいたします。なお、数値の詳細は、本日付ニュースリリース「平成22年度第3四半期報告」をご覧くださいませよう、お願い申し上げます。

【契約の状況（個人保険および個人年金保険）】

- ◇ 新契約年換算保険料は、総合保障型商品、一時払終身保険等を中心に販売が増加したことにより、前年同期比**3.5%増**の**226億円**となりました。
- ◇ 解約・失効年換算保険料は、前年同期比**10.4%減**の**222億円**、解約・失効率は、前年同期から**0.22ポイント改善**し、**4.10%**となりました。
- ◇ 保有契約年換算保険料は、解約や満期等の減少を新契約でカバーできず、前年度末比**2.7%減**の**5,567億円**となりました。なお、医療保障・生前給付保障等の第三分野は前年度末比**1.7%増**の**1,233億円**となっております。

【損益の状況】

- ◇ 保険料等収入は、個人保険の保有契約高の減少に伴い平準払保険料が減少したものの、一時払終身保険の販売が増加したこと等により、前年同期比**0.8%増**の**4,830億円**となりました。
- ◇ 基礎利益は、変額年金保険等の最低保証に係る要因の影響等により、前年同期比**90.5%減**の**34億円**となりました。なお、上記要因を除外した基礎利益は、同**31.3%増**の**176億円**となりました。
- ◇ 変額年金保険の最低保証に係る責任準備金等の変動に対してはデリバティブを用いてヘッジしており、同ヘッジによるキャピタル損益でマーケット要因が相殺される**経常利益**は、前年同期比**43.9%増**の**249億円**、**四半期純利益**も同**122.7%増**の**121億円**となりました。

【主要指標の状況】

- ◇ 有価証券全体の**含み損益**は、前年度末から**364億円改善**の**1,121億円**となりました。
- ◇ **ソルベンシー・マージン比率**は、その他有価証券の含み損益が減少したことを主因として、前年度末から**1.6ポイント減少**して**700.5%**となりました。また、**実質純資産額**は、有価証券全体の含み損益が改善したこと等により、前年度末から**405億円増**の**4,298億円**となりました。

1. 契約の状況

(単位:億円、%)

区 分	平成21年度 第3四半期累計期間	平成22年度 第3四半期累計期間	前年同期比
			増減率
新契約年換算保険料	218	226	+ 3.5
うち医療保障・生前給付保障等	106	102	▲ 4.2

(単位:億円、%)

区 分	平成21年度 第3四半期累計期間	平成22年度 第3四半期累計期間	前年同期比
			増減率
解約・失効年換算保険料	248	222	▲ 10.4
解約・失効率〔年換算保険料ベース〕	4.32	4.10	0.22ポイント改善

(単位:億円、%)

区 分	平成22年度 第3四半期会計期間末	前年度末比	平成21年度末
		増減率	
保有契約年換算保険料	5,567	▲ 2.7	5,722
うち医療保障・生前給付保障等	1,233	+ 1.7	1,212

- (注) 1. 年換算保険料とは、1回あたりの保険料について保険料の支払方法に応じた係数を乗じ、1年あたりの保険料に換算した金額です（一時払契約等は、保険料を保険期間で除した金額）。
 2. 医療保障・生前給付保障等については、医療保障給付（入院給付、手術給付等）、生前給付保障給付（特定疾病給付、介護給付等）、保険料払込免除給付（障害を事由とするものは除く。特定疾病罹患、介護等を事由とするものを含む）等に該当する部分の年換算保険料を計上しています。
 3. 新契約には、転換による純増加を含んでいます。
 4. 解約・失効の数値は、失効後復活契約を失効と相殺せずに算出しています。

【参考】保有契約高

(単位:億円、%)

区 分	平成22年度 第3四半期会計期間末	前年度末比	平成21年度末
		増減率	
個人保険+個人年金保険	301,185	▲ 6.9	323,384
団体保険	141,515	▲ 1.5	143,686
団体年金保険	11,568	▲ 2.0	11,805

- (注) 1. 個人年金保険については、年金支払開始前契約の年金支払開始時における年金原資と年金支払開始後契約の責任準備金を合計したものです。
 2. 団体年金保険については、責任準備金の金額です。

2. 損益の状況

(単位:億円、%)

区 分	平成21年度 第3四半期累計期間	平成22年度 第3四半期累計期間	前年同期比
			増減率
基礎収益	7,005	6,303	▲ 10.0
うち保険料等収入	4,790	4,830	+ 0.8
基礎費用	6,639	6,268	▲ 5.6
基礎利益①	366	34	▲ 90.5
逆ざや額	▲ 498	▲ 462	▲ 7.4
危険差益	914	485	▲ 46.9
うち最低保証に係る要因(注)②	232	▲ 141	-
費差損益	▲ 48	11	-
キャピタル損益	▲ 108	202	-
臨時損益	▲ 84	12	-
経常利益	173	249	+ 43.9
特別利益	6	28	+ 342.1
特別損失	28	29	+ 2.9
契約者配当準備金繰入額	111	113	+ 2.1
四半期純利益	54	121	+ 122.7
基礎利益(最低保証に係る要因を除く) ①-②	134	176	+ 31.3

- (注) 「最低保証に係る要因」は、変額年金保険等における次の金額の合計額です。
 ・最低保証に係る一般勘定の責任準備金の繰入・戻入額
 (平成21年度第3四半期: 228億円、平成22年度第3四半期: ▲123億円)
 最低保証に係る一般勘定の責任準備金とは、変額年金保険等の最低保証リスクに備えて積み立てている準備金です。最低保証に係る一般勘定の責任準備金を繰り入れた場合は基礎利益を減少させる要因に、また、最低保証に係る一般勘定の責任準備金を戻し入れた場合は基礎利益を増加させる要因になります。
 ・最低保証に係る保険料収入から、年金開始等に際して最低保証のために繰り補した額を控除した額
 (平成21年度第3四半期: 3億円、平成22年度第3四半期: ▲18億円)

3. 主要指標の状況

(単位:億円、%)

区 分	平成22年度 第3四半期会計期間末		平成21年度末
		前年度末比 増 減 額	
ソルベンシー・マージン比率	700.5	▲ 1.6ポイント	702.1
実質純資産額	4,298	+ 405	3,892
有価証券の含み損益(一般勘定)	1,121	+ 364	756
総資産	74,249	▲ 738	74,988

以上